

「どうせやるならカッコよく」をモットーに活躍する女性農業経営者

(株式会社 寺田農園 (寺田真由美氏) ・ 岐阜県高山市)

1 概要

- ・ ホテル勤務から結婚を機に寺田農園に就農。「どうせやるならカッコよく！」をモットーに農業に取り組み、平成22年には法人を設立し、夫とともに代表取締役就任。
- ・ 加工場を建設し、自家製トマトジュースやトマト以外の農産物を使った加工品を開発。また、同農園の農産物のブランド化に取り組む。
- ・ 就農6年目に自分でメロン栽培を始め、同年代の農家と栽培技術等の勉強会を開催したり、「飛騨メロン研究会」に参加し、平成17年には飛騨メロン共進会で岐阜県知事賞を獲得。
- ・ 現在では、マルシェイベント等へ参加するほか、平成26年4月に開設した同農園のアンテナショップにおいて、同農園の農産物や加工品等を販売。



(寺田真由美氏)

2 攻めの農林水産業を踏まえた取組の特徴

- ・ 農業への新規参入へのハードルがとても高いと感じたことから、就農を希望する若者の研修を受け入れており、将来性があると見込んだ研修生を現場責任者とし、役員へ登用。
- ・ 農業女子プロジェクトのメンバーとしても活躍しており、農業が女性の感性を活かせるおしゃれな職業の一つとして認知され、農村地域でキラキラ輝く、パワフルな女性農業者が増えることで、一人でも多くの女性が就農を希望するようになってほしいと考えている。

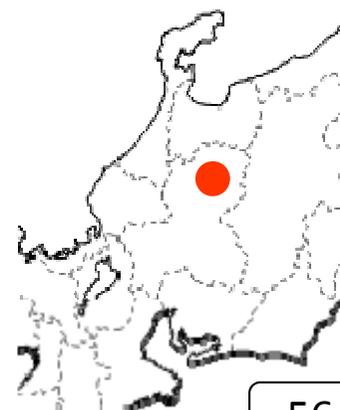


(同農園のトマト)

3 今後の展開方向

- ・ 同農園の農産物だけでなく、地域内の農産物も加工販売することで、地域及び地域内農産物のPR、農家の所得向上、加工所稼働率の向上等を達成し、飛騨地域農業全体の活性化につなげていくことを目指す。

(位置図)



農業水利施設を活用した小水力発電の導入

(加子母小郷地区・岐阜県中津川市)

1 概要

- 岐阜県には豊富な水資源があり、小水力発電が可能な農業水利施設も数多く存在。
- 岐阜県が事業実施主体となり、農業用水を利用した「加子母清流発電所」（年間発電電力量168万kWh）を中津川市加子母小郷地区に建設（平成26年2月）。
- 県営施工による農業用水を活用した小水力発電としては、東海農政局管内で初。



(小郷用水)

2 攻めの農林水産業を踏まえた取組の特徴

- 売電収益を活用して土地改良施設の維持管理費の負担軽減を図るとともに、農村振興施設の電気料金に充当することで、地域資源を活かした農村地域の振興にも寄与。



(発電所外観)

3 今後の展開方向

- 施設管理者である市職員の専門知識の修得と技術力の向上のため、研修を実施。
- 同時に、県内の他地域にも、順次、農業水利施設を活用した小水力発電を普及・拡大。

(位置図)



猪鹿無猿柵による農地管理と担い手への農地集積

(宮地集落・岐阜県郡上市(ぐじょうし))

1 概要

- ・ 少子高齢化の進展と鳥獣被害の増加により農地が荒廃。
- ・ 平成12年に「中山間地域等直接支払」の集落協定を締結したことをきっかけに、県や資材メーカーと連携し、効果的な鳥獣被害対策と雑草対策を研究・開発。
- ・ 創意工夫を重ねて完成させた「猪鹿無猿柵（鳥獣侵入防止柵）」と「防草ネット・シート」を集落全体に設置。



(猪鹿無猿柵の設置状況)

2 攻めの農林水産業を踏まえた取組の特徴

- ・ 猪鹿無猿柵と防草ネット・シートの設置により、鳥獣被害が大幅に減少し、畦畔等の管理も不要となったことから、農地の過半が担い手に集積され、耕作放棄地も解消。
- ・ 猪鹿無猿柵は、総合獣害防止柵として岐阜県内で広く活用されている（県内延べ145km設置）ほか、福井県、高知県等5県でも導入されるなど全国に普及。
- ・ 防草ネットは、沖縄県以外の全都道府県に普及。



(退散鳥獣・草園研修会)

3 今後の展開方向

- ・ 平成26年に、鳥獣被害・耕作放棄地防止資材等を展示し、その設置等を体験する「退散鳥獣・草園」を開設。
- ・ 県内外から視察研修を受け入れ、鳥獣被害と耕作放棄地の具体的な防止策を全国に発信。

(位置図)

